

第二章 市三大事業完成の効績

一、市三大事業に對する貢獻

博士の市
三大事業
に對する
貢獻

それ京都市の所謂三大事業は水利水道電軌を總括する。而して、之が基幹たる第二疏水開鑿工事は、愈起工後五箇年、明治四十五年を以つて、芽出度く竣功を告げた。博士は、教授に研究に、多忙なる大學教官の任務に服しつゝ、此の大事業に參劃し、起工式を擧ぐるまでは、之が設計及び監督を、起工式舉行以後、明治四十三年六月までは土木顧問を、其の後には名譽顧問を、引續き市より囑託をうけ、其の成功に最善の努力を惜しまなかつた。直接工事の従事員には博士が養成せし後進の俊秀、其の他、大學並びに高等工業學校出身者を始め、實際上に經驗を積める専門家を網羅し、第一疏水工事時代に見る如き困難は、これなかりしも、本事業に對し博士の貢獻せしところ如何に大なりしやは、明治四十一年、其の起工式を擧ぐるに臨みて、市當局より博士に呈せし、次の感謝狀を見るも明かであらう。

起工式に
際し市の
感謝狀

曩に本市第二水利事業實測調査に關し、工務監督御囑託申上候處、今回好結果を以て調査結

行を告げたるは、全く貴家御盡力の結果に外ならず。依て茲に感謝の意を表し候也。明治四十年八月十二日、京都市長西郷菊次郎、工學博士田邊朔郎殿

上水道急
速濾過式
の試み

由來博士が我が國に於ける幾多の大事業遂行に關與するや、其の専門的研究に專らなる結果、創意を凝らし、新機軸を出して、斯業界に寄與せしところ、牧擧に違はない。市の三大事業に於いては上水道に急速濾過式の採用を斷行し、優良の成績を擧げし如き、また其の好箇の一例であつて、此の急速濾過式水道は當時朝鮮及び滿洲に工事中のものありしも、我が國內地に於いては博士の擧を以つて嚆矢とするのである。

竣功式に
於ける謝
狀

斯くて明治四十五年六月十五日、其の竣工式日に際し、市は更に左記の謝狀を贈り、以つて博士の多大なる盡瘁の恩に酬いた。

本市三大事業ノ施設ニ當リ顧問トシテ土木ニ關シ、熱誠盡瘁、竟ニ克ク竣成ノ今日アルニ至ラシメタル功勞ハ、本市ノ永ク記シテ護レザル所ナリ。因テ竣功式に際シ、金貳千五百圓及他記念金壹拾組ヲ贈呈シテ感謝ノ意ヲ表ス。明治四十五年六月十五日、京都市長川上親晴。

博士の努
力のあこ

博士が所謂三大事業に關せる努力のあとは當時の京都市參事會及市會に於いて、博士の説明せしところを算記せし議事録を見れば、一目瞭然たるべく、又其の事業

全般に亘りては大正九年九月以降の發行に係る京都市役所編纂「三大事業誌」なる浩漚の記録に盡されて居る。今左に大正十一年に三大事業拾週年記念祝賀會のあつたとき頒布された調書の概要を摘録して博士の功績を偲ふに便するであらう。

京都市三事業概要(抄略)

總 說 本市ハ既ニ第一疏水開鑿ニ依テ或ハ水運ニ發電ニ灌溉ニ將、飲用防火等ニ大ナル便益ト福利トヲ享受シ來リシト雖モ、世運ノ進歩ニ伴ヒ、茲ニ京都市勢ノ一大膨脹時代トモ稱スヘキ明治二十八年ニハ平安遷都壹千百年ノ記念大祭ノ舉行サル、アリ、同時ニ政府ハ本市ニ第四回内國勸業博覽會ヲ開設セラレシ等ニヨリ、當時電氣事業ハ未ダ社會ノ一大問題タルノ氣運ニ達セサリシモ、需用次第ニ加ハリ、數年ヲ出デスシテ之ニ應ズル能ハサルノ有様トナリ、又此ノ大祭及博覽會ハ海内耳目ノ焦點トナリテ、入京ノ士人、蟻集セシ爲メ、各所ノ道路大ニ其ノ狹隘ヲ感ジタルヲ以テ是等ノ事實並ニ狀勢ニ徴シ、更ニ第二疏水開鑿ノ計畫ヲ樹ツルニ至レリ。明治二十八年水利調査委員ヲ設ケテ各種ノ調査ヲ遂ゲ之ニ上水道並道路擴築電氣鐵道敷設案ヲ一括シテ、明治三十九年十二月二十一日市會ニ提案シ、同四十年三月六日之ヲ議決セリ。爾來七閱歲、工費外債五千萬法(一法ニ付三十九錢換算金額千九百五十

萬圓ヲ投ジ明治四十五年四月之ヲ竣成セリ。即水利水道並軌道事業是ナリ。而シテ今ヤ本市三事業ハ茲ニ十週年ヲ經過シテ各其ノ順調ナル發達ト成績ヲ擧ゲ來リシハ誠ニ慶賀スルトコロナリ。以下順次之ガ概況ヲ述ベントス。

第一、水利事業　疏水並ニ運河ヲ開鑿シテ近江琵琶湖ノ水ヲ引用シ其ノ水力ヲ以テ電氣ヲ發生シ之ヲ電燈動力ニ供スルト同時ニ更ニ之ヲ利用シテ貨物運輸、水車運轉及灌溉、防火等ニ使用シツ、アリ。而シテ之ガ疏水路トシテ大津京都間ニ、アリ。即チ第一疏水及第二疏水是ナリ。

第一疏水(沿革)　第一疏水ハ大津三保崎ヨリ京都蹴上ニ引用スル水路ニシテ水量三百個、此ノ水ハ蹴上ニ於テ發電用ニ供シ、使用後ノ水ハ南禪寺船溜ニ於テ運河ニ出デ加茂川ノ東岸ヲ經テ伏見ニ至リ、淀川支流ニ放出スルモノナリ。明治十八年八月工事ニ着手シ五星霜ヲ經テ明治二十三年四月竣功ヲ告クルヲ得タリ。是實ニ我京都市無盡ノ富源タルト共ニ文明ノ一大源泉ナリ。而シテ之ニ要セシ工費ハ明治十七年度以降ニ於テ(二十三年以後ノ水利事業費ヲ加ヘテ)二百十六萬三千百七十九圓三錢二厘ニテ此投下資金ハ明治四十二年度迄ニ償還ヲ完了セリ。

本事業ハ元京都府ノ事業ナリシガ市制發布ノ結果明治二十三年二月市制第六十九條ニ依リ市參事會ヲシテ分掌セシメ爾來市營トシテ今日ニ至レリ。

電氣事業ハ第一疏水開通ト共ニ之ニ着手シ明治二十四年五月開業ノ式ヲ擧ゲ爾來繼續事業トシテ着々其ノ歩ヲ進メ同三十年ニ至リ畧其ノ事業ノ完成ヲ告ゲタリ當時ハ水車二十臺發電機十九臺ニシテ此ノ總馬力數二千二十二馬力ナリシガ電氣事業ノ進歩ニ隨ツテ其設備ヲナシタルカ故ニ或ハ直流アリ、二相三線式アリ、三相三線式アリ、五十「サイクル」アリ、六十「サイクル」アリ、百三十三「サイクル」アリ、五百「ヴォルト」アリ、二千「ヴォルト」アリ、三千五百「ヴォルト」等多種多樣ナリシナリ。

(需用狀況) 動力ハ明治二十四年十一月ニ一馬力電動機ノ試運轉ヲ行ヒタルヲ以テ送電ノ始メトシ、電燈ハ動力需用家ニ對シテノミ白熱燈ヲ供給シ(一般ノ電燈ハ京都電燈會社ガ供給シテ其電氣ハ前記ノ發電所ヨリ送レリ)外ニ街燈用ノ弧光燈ト白熱燈ヲ市ノ議事堂ニ點火シタリ。今左ニ明治二十四年以降ノ電力並水力使用數ヲ掲グ。

年 別	電力使用數	水力使用數
明治二十四年	馬力 ・三	二六 ^圓
同 三十三年	二、三一・二	五〇一
同 四十三年	二、六四・七	五八二

第二疏水(沿革) 第一水利事業ニヨリ得タル電氣ハ世ノ進運ト共ニ需用著シク増加シ其供給シ得ル電力ニテハ到底需用家ヲ満足セシムルコト能ハザル光景トナリシヲ以テ第一疏

水路ニ増水ヲ企テタルモ實行シ難キヲ以テ三十五年四月ニ獨立水路ヲ計畫シ之ヲ地方廳ニ出願シタルヲ以テ初メテ第二琵琶湖疏水工事ノ名起リ明治四十一年十月起工、四十五年三月工事ヲ竣ヘ、五月通水スルニ至レリ。本工事ハ大津三保崎ヨリ京都蹴上ニ至ル迄ハ第一疏水ト相並テ獨立水路ヲ開鑿シ、新ニ五百五十個ノ水ヲ得テ第一疏水ニ由ツテ得タル三百個ノ水ト蹴上ニ於テ合流シ合計八百五十個トナル、此ノ内七百五十個ヲ發電用、殘百個ハ上水道御所防火水道、灌漑用水、動物園其ノ他ニ使用ス、トス、此ノ發電所ヨリ放出セラレタル水ハ南禪寺畔ニ於テ運河ニ入り、ソレヨリ伏見終點ニ至ル、此間ノ水路ハ或ハ其ノ底ヲ深クシ或ハ其ノ幅員ヲ擴張セリ。此間夷川開門ニハ十尺二寸又伏見「インクライン」ニハ四十七尺ノ有效落差アリ各之ヲ利用シテ二千餘馬力ノ發電ヲナスヲ得タリ。

(發電設備)

(イ) 蹴上發電所ハ水量七百五十個有效落差百六尺ニシテ明治四十五年五月全部竣工セリ。其落成ト共ニ在來ノ發電所ヲ廢ス。發電設備中主ナル機械ハ原動機五個發電機五臺(内一臺ハ豫備)ニシテ出力四千八百「キロワット」ナリ。此ノ内千二百「キロワット」ハ地中電纜ニ依リ姉小路變電所ニ送り電氣鐵道用ニ供シ、千八百「キロワット」ハ同ジク地中電纜ニ依リ小川變電所ニ送り、同所ニ於ケル遞降變壓器ヲ經テ電燈電力ニ配電シ、殘リ千八百「キロワット」ハ發電所ニ於ケル遞降變壓器ヲ經テ電燈動力ニ配電ス。電壓ハ動力用三相三線式各線間最大電壓三千四百五十「ヴォルト」電燈用ハ三相四線式ニシテ外線間最大電壓ハ動力用ニ同

シ。

(ロ)夷川發電所ハ夷川開門ニ於テ水量五百個有效落差十尺二寸二百八十[キロワット]ノモノニシテ大正三年三月竣工本發電所ハ原動機一個發電機一臺ニシテ蹴上發電所ニ連絡ス
 (ハ)伏見發電所ハ夷川發電所ト共ニ第二期事業ハ二期工事ニ屬シ大正三年五月落成使用水量五百個有效落差四十七尺ニシテ原動機三個發電機三臺内一臺豫備出力千三百二十[キロワット]ナリ本所ハ獨立シテ蹴上發電所ト異ナル方面伏見七條附近ニ電力ヲ供給シ又市街電車ニモ供給スルモノトス。

(建設費)

第二期水利事業ハ第一期計畫建設費トシテ約四百三十萬圓ヲ要シ又第二期計畫ニヨル夷川及伏見發電所建設並運河擴築費トシテ五十三萬八千餘圓更ニ配電設備費トシテ五十八萬四千餘圓ヲ要シタルヲ以テ總計五百四十一萬七千餘圓トナレリ。

(經營概況)

本市水利事業ハ三事業ノ根元トナリテ發電ニ水道ニ將電鐵ニ總テノ原動力ヲ供給スル關係アリ且又既ニ第一水利事業ニ依リテ都下一般ニ電力並水カヲ供給シ三事業中最モ有力ニ而モ確實ナル經營狀況ヲ繼續シテ今日ニ及ベリ即ハチ

大正元年度ハ新發電所ノ建設工事竣成セシヲ以テ舊發電所ヲ廢シ又電燈動力ノ新規申込ヲ受理スルコトハナセリ新發電所ハ全部交流式ナルヲ以テ從來ノ動力使用者ノ使用セル直流電動機ハ之ヲ交流電動機ニ更メルタメニ配電工事ヲ要スルモノ多ク隨テ供給遅々タ

ルヲ免レズシテ年度末ニ於ケル使用ハ動力三千四百二十二馬力電燈一萬三千六百五燈ナリ。(中略)

同四年度ハ前年度ノ餘波ヲ受ケ財界依然不況ヲ免レザリシモ秋季ニ於テ御大典ノ御舉行ニ依リ俄ニ需用ヲ喚起セリ。而シテ本市ニハ他方京都電燈株式會社ト營業上自然競争ノ傾向ヲ顯ハシ整理上互ニ支障不尠ヲ以テ五個年間ヲ期シ兩者ノ營業區域ヲ限定シ、使用料モ亦協商ノ上同一率トナシタリ(中略)

同十年度ニ於ケル計器裝置數ハ動力七百二十四個電燈一萬六千四百二十九個ニシテ依然電力ノ不足ヲ告ゲ購入電力ヲ以テ僅ニ補充セリ。

年度末ニ於ケル動力及電燈現在數

年度別	動力		電	
	個數	馬力數	個數	キロワツト數
大正元年度	三六九	三、四三三	一三、六〇五	四六八
大正十年度	一、七二三	九、四〇〇	一、五四一	二六、九七四

使用料收入表

年度別	動力使用料		電燈使用料		電力計使用料	
	計	計	計	計	計	計
大正元年度	—	—	—	—	—	—
大正二年度	二九六、七二一・七〇	一七六、四二七・六〇六	三三三九・七三三	四七七、九一九・〇四〇	—	—

大正十年度 五五二・六六〇 一、四七三・六七三・九〇 四六、七五二・七五〇 二、〇三六・三〇五・〇〇〇

第二、水道事業(沿革)

明治十八年始メテ京都府ニ於テ三十三年京都市ニ於テ上水道ノ計畫

ニ着手セシガ未ダ衛生思想ノ發達セザリシ爲メ實行ニ至ラズ四十一年二月ニ至ツテ水道敷設認可及國庫補助金七十五萬圓補助ノ指令アリ、四十二年六月本事業ニ着手シ四十四年末工事略々成リ翌四十五年四月給水ヲ開始セリ。

(設備)

(一)設備概説 原水及引水路、琵琶湖ヨリ第二疏水路ニ依リ來ル水ヲ三條蹴上ニ於テ花

頂山背ノ中腹ニ設置セル淨水池ニ導キ市内各所ニ配水スルモノニシテ原水ノ水質優秀、水量豊富ナル全國ニ冠タリ。淨水方式、配水ハ取入口ヨリ濾過場ヲ出ル迄總テ自然流下法ニ依リ、其ノ一部ハ低區配水池ニ同ジク自然流下法ニ依リ、他ノ一部ハ唧筒ニ依リ高區配水池ニ揚ゲ後更ニ自然流下ニ依リ配送ス。

水ノ清淨處分ハ急速濾過法ヲ採用シ、濾過速度ハ廿四時間ニ四百呎ノ高速度ヲ標準トス。實ニ建設當時ハ本邦唯一ノ方式ヲ採用シタルモノナリ。一人一日ノ平均消費量ヲ三、五立方尺(約五斗四升)一人一日ノ最大消費量ヲ四、九立方尺(約七斗六升)一人一時間ノ最大消費量ヲ一日ニ付七、三五立方尺(約一石一斗三升)ノ割合トス。給水豫定人口、現在設備ハ五十萬人分トス。(ロ)水源地取入口ヨリ來ル水ハ一旦附屬井ニ引キ、適量ナル硫酸アルミナノ注入ヲ施シ混和流下セシメテ沈澱池ニ導キ夫ヨリ濾過槽ニ入ル、濾過槽二十個ハ各圓形ニシテ二十四時間

二付四百呎ノ高速度ヲ以テ濾過スルガ故ニ全槽ヲ一時ニ使用スルモノトセバ一晝夜約四十萬石ノ濾過能力ヲ有ス。唧筒室ハ濾過場ニ隣リ同場ヨリ來ル水ヲ百十五尺ノ高地ニ在ル高區配水池ニ送ル裝置ニシテ百六十馬力ノ「タービンポンプ」四臺ヲ備付ク。配水池ハ高地低地兩區域ノ人口ハ殆ド相等シキヲ以テ配水池モ亦同形同大ノモノ各一個ヲ併置ス。二十五萬人ニ對スル一日最大消費量ノ約六時間ヲ保ツノ力ヲ有シ、高地區配水池ハ海面三百六十五尺低地區配水池ハ同二百五十尺ノ位置ニ在リ。

配水方法及設備本市ハ地勢北方ヨリ南方ニ向ヒ傾斜著シク又東山一帶ハ東ヨリ西ニ向ヒ急峻ナル勾配ヲ有スルガ故ニ高地ニ對シテハ高地區配水池ヨリ低地ニ對シテハ低地區配水池ヨリ配水スル方法ヲ探レリ。

(ハ)配水管配水鐵管ノ延長ハ建設竣成當時十萬四千八百四十三間餘ニシテ第二期擴張布設ヲ合算シタルモノ十九萬八千六百七十二間餘大正十年度末現在二十萬七千二百二十二間餘ナリ。

(ニ)第三期鐵管擴張布設大正七年四月一日接續町村ノ本市ニ編入セラル、アリ、人口ニ於テ約九萬八千餘ノ激増ヲ示セリ。大正八年十二月擴張費百四十萬圓ヲ以テ工事ニ着手シ將ニ竣成ヲ告ゲントス。

(建設費)

本工事ハ參百萬圓ノ豫算ヲ以テ工事ニ着手シ其ノ工事ノ將ニ終ラムトスルニ及

ビ第二期線擴張布設ヲ出願シ、四十四年十二月其筋ノ認可ヲ得、翌四十五年七月着手、大正二年五月竣工ス。此ノ工費總額參百四拾五萬六千餘圓トス。

(經營概況) 事業創始ノ當初ニ於テハ市民ハ井水ノ佳良ナルヲ過信セル結果、上水ノ使用者頓ニ増加セズ、收入亦少額ニ過ギザル爲前途ヲ悲觀セザルヲ得ザル狀況ナリシヲ以テ、經營當務者ノ東奔西馳、上水使用ノ勸誘ニ暇メタル勞苦ハ之ヲ追想スルニ餘アリ。偶大正三年以降歐洲大戰ノ反影ハ本事業ニモ亦好影響ヲ呈シ、需用増加ノ傾向ヲ擴大シタル爲隨テ收入亦増進シ、斯クテ始メテ基礎漸ク鞏固トナルニ至レリ、今左ニ需用其他ヲ表示ス。

給水戸數

年度別	給水戸數			市戸數ニ對スル給水歩合
	專用	共用	計	
大正元年度末	三,九六四	二,一六〇	六,七九二	〇・七五
大正十年年度末	三六,七四二	二九,七三二	六六,四六三	五・二六
年度別	專用給水使用料	共用給水使用料	私設防火栓演習使用料	量配水器使用料
大正元年度	四二,二六五 ^円 二五〇	一八,六五二 ^円 五〇	一八,〇〇〇 ^円	一,六八八 ^円 六七〇
同 十年年度	五九,八八一 ^円 〇〇〇	八九,二六六 ^円 六四〇	二,六六〇 ^円 〇〇	六三,七六三 ^円 六四〇

第三、軌道事業(沿革) 明治四十一年二月許可ヲ得タルニ當時財界ノ沈淪ニ會シ、直ニ之ニ着

手スル能ハザリシガ、四十二年十一月ニ至リ資金ノ調達成リタルヲ以テ大ニ諸般ノ事務ヲ進メ、四十五年六月始メテ千本線丸太町線ノ一部、烏丸線ノ一部及四條線ノ一部ノ開通ヲ見タリ。次デ大正元年ニ於テ千本線、四條線ノ殘部、大宮線、七條線ノ一部、今出川線ノ一部及四條線ノ殘部、及東山線ノ一部ヲ開通シ、大正二年ニ於テ東山線七條線ノ殘部、丸太町線ノ殘部、東山線ノ殘部、烏丸線ノ殘部及七條線ノ殘部ヲ順次開通シテ第一期豫定計畫線路全部ヲ完成スルニ至レリ。大正六年十月更ニ等二期計畫タル今出川線ノ殘部ヲ開通シテ營業線路十四哩三分四厘九毛トナレリ。

〔諸設備〕

道路ノ幅員ハ丸太町以南ノ烏丸線ヲ十五間トシ丸太町線及四條線ヲ十二間トシ其他ヲ十間及九間幅トス。而シテ此ノ内十五間及十二間ノ道路ニ限リ歩車道ヲ區別セリ。電氣軌道ハ全部複線式ニシテ軌間四呎八吋半軌條ハ溝型トシ重量九十二封度ナリ。

客車ハ四輪車ニシテ二十五馬力ノ電動機二個ヲ裝置シ制御器ハ手働トシ外ニ非常用電氣制動裝置ヲ有ス。車體ノ全長ハ二十八呎八吋幅七呎六吋ニシテ閉覆式四十八人乗トス。明治四十五年五月一部ノ検査ヲ了シ六月ヨリ之ヲ使用セリ。

電車線路ハ直流五百ヴォルト「架空複線式」ニシテ圓形溝付ノ鋼銅線ヲ使用シ吊架法ハ腕金式及吊線式トス。

〔京電買收〕

市内ニ於ケル交通機關ノ統一上京都電氣鐵道株式會社ヲ買收スルノ必要ヲ認

メ大正七年六月末日遂ニ之ヲ買收セリ。同社ノ營業哩ハ市外線ヲ加ヘテ十五哩六分五厘五毛ニテ本邦ニ於ケル電氣鐵道ノ嚆矢トシテ交通事業ニ貢獻スルトコロ尠カラザリシモノナリ。

(買收後ノ市電) 買收後ノ市電トシテハ營業哩二十九哩四分六厘五毛、客車二百六十九臺、貴賓車二臺、撒水車八臺、車庫三個、所變電所三個所ナリ。

(建設費) 三事業中建設費トシテ最モ多額ヲ要シタルハ軌道事業ナリ。即チ道路擴築並電氣軌道建設費トシテ千參拾壹萬七千八拾五圓參拾四錢參厘ヲ要シ、總額ノ五割三分ヲ占ム。次に京都電氣鐵道株式會社買收費トシテ四百七拾五萬圓ヲ要シ、更ニ大正九年度ヨリ施行セル軌隔擴張工費、大正十年度迄トシテ五拾壹萬貳百九拾壹圓六拾九錢ヲ要シタルヲ以テ、總計千五百五拾七萬七千參百七拾七圓參錢參厘トナル。

(經營概況) 大正元年度、此年度ニ於ケル營業日數二百九十四日、平均營業哩七哩二七ニシテ一日平均六十三臺ノ車輛ヲ運轉シ、乘客千百三十八萬九千餘人、乘車料金參拾八萬七千九百六拾餘圓ヲ收入セリ。走行總哩二百二十五萬四千五百餘哩、一車一哩當リノ乘客五人餘ニシテ、同收入十七錢二厘ニ當ル。

大正十年度、一般事業界ノ不振ハ未タ恢復ノ徵ナク、不安裡ニ本年度ヲ經過セリ。サレハ運轉計畫上ニ於テモ稍悲觀ノ傾キナキニアラザリシモ、乘車習慣ノ情勢ト勞働者ノ收入裕ナル

爲經濟界ノ不振ニ不拘亦相當ノ成績ヲ收ムルヲ得タリ。即チ乘客數七千八百八十萬九千三百餘人賃金收入四百五十九萬九千九百七十餘圓ニ達ス。之ヲ前年ニ比較セハ人員ニ於テ六百二十七萬六百餘ノ増加ヲ見タリ。但此ノ乘客數ノ内ニハ從來計算ニ加ヘサリシ乘繼券乘客九十九萬四千三百餘ヲ含ムヲ以テ實際增加人員ハ五百二十七萬六千二百餘人ナリ。

事業公債一覽表

大正十年度末現在

名稱	起債ノ目的	起債年度	發行額	元金償還額	償還未濟額	利率	償還期限	備考
(第一回)外債	第二水利事業、水道事業及道路擴築並電氣鐵道建設費ニ充當	明治四十二年度	佛幣 壹,〇〇〇,〇〇〇圓、法 幣,〇〇〇,〇〇〇圓	法 幣,〇〇〇,〇〇〇圓	一五	分	大正八年一月一日皆償還	
(追加)外債	疏水夷川及伏見ニ發電所建設費並第二水利事業及水道擴張費ニ充當	明治四十四年度	同 五,〇〇〇,〇〇〇圓	法 幣,〇〇〇,〇〇〇圓	一五	分	同	
第二回公債	大典ニ關スル施設事業費ニ充當ノ爲	大正二年度	一,〇〇〇,〇〇〇圓	一,〇〇〇,〇〇〇圓	一六	分	大正九年度	
第三回公債	外債償還資金ニ充當ノ爲	大正六年度	八,〇〇〇,〇〇〇圓	二,二〇〇,〇〇〇圓	五分五厘	大正廿五年度		
第四回公債	京都電氣鐵道買收費ニ充當	大正七年度	四,三〇〇,〇〇〇圓	—	五分五厘	大正卅六年度		
第四回公債 (借入金)	京都電氣鐵道買收費ノ一部ニ充當	大正七年度	五,〇〇〇,〇〇〇圓	三,〇〇〇,〇〇〇圓	一六,〇〇〇,〇〇〇圓	分	大正十二年度	

第五回公債	電氣軌道軌隔擴張ニ關スル費用	大正八年度	一〇〇,〇〇〇	二五,〇五五	九六、九四五	六分四厘	大正廿一年度	普通經濟負擔ニ屬スル七〇〇、〇〇〇圓ト共ニ募債セリ
第六回公債	運輸現業員寄宿舎建設費ニ充當	大正八年度	一〇〇,〇〇〇	五、九九〇	九四、四一〇	四分八厘	大正廿七年度	普通經濟負擔ニ屬スル七〇〇、〇〇〇圓ト共ニ募債セリ
第七回公債 (借入金及短期公債)	水道配水管延長並量水器増設費	大正九年度 大正十年度	一、三〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	八七〇,〇〇〇分	八分及七分	大正十一年度	普通經濟負擔ニ屬スル七七九、三〇〇圓ト共ニ募債セリ
第七回公債	同	大正十年度	一、七六、〇〇〇	—	一、七六、〇〇〇分	六分	大正廿六年度	
第八回公債	運輸現業員住宅建設費充當	大正九年度	一七〇,〇〇〇	—	一七〇,〇〇〇分	四分八厘	大正十六年度	
			五〇,〇〇〇、〇〇〇圓 <small>法</small>	三〇,〇〇〇、〇〇〇圓 <small>法</small>	—			
			三六、八八八、〇〇〇圓	四、三〇〇、六四五圓	五、六七、三五五圓			

(の)三大事業に關係せし主なる人々の姓名は博士著琵琶湖疏水誌第一四九頁にあり。

二、事業完成の紀念及び祝賀

博士の爲に市の爲に否我が

明治四十五年は博士の京都に就職三十年に相當する。而して此の年、市に於いては博士の調査設計に成れる第二疏水の工を終へて、近く三大事業竣成せんとする

日本文明
の爲に記
念し且つ
祝賀すべ
き年

のである。故に、此の年は、博士にとりて記念すべき年たるに共に、市もまた大に記念すべく、市の爲に祝賀すると、ともに、併せて博士の爲に大に祝賀すべき年である。否々、これらの大工事が、近世日本の文明を表徴せし大事業たる點に於いて、我が國家の記念し、且つ、祝賀せざるべからざる年たるや謂ふまでもない。即ち左に誌す催しは其の意義尠少なからざるを知るべきである。

博士の記
念祝賀

博士は此の年三月二十三日、市の第二疏水工事竣工祝賀式舉行に先だつ三ヶ月前、京都府市の重なる人々を市岡崎公園の勸業館に招待して、盛大なる祝賀會を催した。時に三大事業の外曩に博士が京都府技師在任當時よりの調査に係る山陰鐵道は新たに開通し、又、博士の宮内省より囑託を蒙りし京都御所御用水施設事業も、將に此の年此の月を以つて落成せる等、博士の喜悅餘りありしを想見せらる。然も博士は謂へらく、在職三十年間、其の着手せし各事業の斯く芽出度く完成を告げたるは、全く府市有志諸氏の協力の賜によると。されば博士の意を以つてすれば、當日の祝賀會は博士がこれら有志諸氏に對する謝恩會ともいふを得べく、此の謙虚なる主催者の精神は、當日の會をして極めて愉快なるものたらしめ、來賓一同に多大の満足を與へた。席上、主客交驩の狀は、其の翌日の新聞紙によつて次の如く

祝賀宴に

於ける主
客交驛の
狀

報道せられて居るのである。

京都大學の教授にして、多年府市の土木事業に關係せる工學博士田邊朔郎氏は、既記の如く、昨日午後二時より、菊池大學總長、大森京都、川島滋賀の二知事、井上市長、大學各教授、市名譽職、官公吏、新聞記者、其他の重なる人々二百五十餘名を、岡崎公園の勸業館に招き宴を開けり。

當日の會場たる勸業館樓上

の西部には舞臺を設け、東部には博士の擔任せし京都

市第一疏水通水式當時の勅語中、自今此水利に藉つて以て人工を資け他日の殷富を期せよとあるに因み、第一第二兩疏水路の合流したところの隧道の入口に掲げし、博士揮毫の「籍水利資人工」の拓本扁額を掲げ斯くて來賓一同の着席するや、餘興の茂山社中末廣がりの狂言に次いて、江良千代、伊藤れん、嶋せい、糸屋初尾、谷今村、山岸、遠藤其他で雲井九段及び博士自作の民草の箏、三味線、尺八の合奏あり。夫より祇園の校書三吉貞子、雛勇の地方にて、松本さだの山姥の舞ありて宴に移り、田邊博士は、

自分の明治十六年京都に來りし以來、茲に年を閱する三十、當時は神戸の西に鐵道なく、大津の東に東海道線の聯絡あるにあらず、京都の人口も今日の二分の一に過ぎず、大阪の煙突も指を屈して數へ得べき程であつた。明治二十三年、琵琶湖疏水工事の竣工式の時は、畏くも、兩陛下の臨御あつて勅語を賜はつた。當時は東海道線は全通して間もない時であつた。然るに、今や第二の疏水工事、京都上水も成り、御所御用水も完成し、擴築道路上の電氣

鐵道も遠からず運轉すべく、新たに山陰の鐵道の開通するあり。當時を追想すれば殆んご隔世の感あり。之を歐米先進國進歩發達の跡に徴すれば、尙及ばざるこゝ遠きも先以つて誠に目出度こゝ、云ふの外なし。而して此間自分が諸君の御懇命を蒙りしは一方ならざれば、本日粗宴を張り聊か感謝の意を表はすため、其行届かざるこゝは吳々も御宥恕被下たし。この挨拶をなすや

菊池總長は直に起つて

余は滿場諸君の同意を得、吾々來賓一同に代り大森知事を煩し謝辭を述べん。こゝ述べ、大森知事は、今夕の來賓を代表するは菊池總長其人なるは當然なるも、斯く機先を制せられしは幸か不幸か。こゝて、

田邊博士が十六年初めて京都に來り第一疏水工事に従事し、爾來今日に至る迄、一日の如く此地の土木事業に貢獻せしも、愈々之より筆と墨との仕事に専心に従事せられん。こゝを聞き、本日は大に喜んで此會に出席せり。博士が明治十六年京都に來りし當時は千年の帝都たる此京都も次第に衰運に傾きし時なりし。博士が當時大學に業を卒へ、京都衰運の挽回策たる第一水利事業に身を任せられし先見と膽力とは、夙に吾等の推服敬重する處なり。此事業の營に京都の衰運挽回策たるに止まらずして、國運を進歩させる所以なれば、そこ 聖上も臨御ありせられ、勅語をも賜りたり。博士が三十年一日の如く、府市土木事業のため貢獻せられし功績は實に偉大なり。余は博士の功績を想ふ。同時に、北垣明府

の功勞をも追想せざる能はず。今此の席に列して居られざるは遺憾なるも、其の功勞は市民の均しく感銘して忘るゝ能はざる所なり。又當地の有志諸君が此事業の爲に盡力せられし事は又之と同時に想ひ起さるを得ず。然るに今や時勢の進運と同時に、京都市の所謂三大事業も今將に竣功せん。此の際に於ける博士の苦心慘憺たりしはまことに察するに餘りあり。述べ菊地總長の發言にて

一同杯を舉げて博士の萬歳を三唱

し祇園の校書杯盤の間に幹旋し其間更に素囃越獅子、柱立、其他數番の舞あり。大森知事は更に工學博士として令名ある主人公田邊博士は又音樂に堪能なれば箏の一曲を拜聽したし。所望し、主客一同十分の歡を盡して午後六時過ぎ散會し近頃稀なる盛會なりし

明治四十五年三月廿四日、日の出新聞所載

其の後京都市は大正八年十二月六日第一疏水開通並びに市制施行の三十年記念式を岡崎公園市公會堂に於いて舉行した。此の日安藤市長は左の式辭を朗讀した。

大正八年
十二月六
日第一疏
水開通三
十年記念
式を舉行
す

茲に本日をして閣下竝諸君の來臨を辱うし、市制施行三十年、竝第一琵琶湖疏水開通三十年記念の式典を擧ぐるに至りしは、本市の最も光榮とする所なり。

抑も本市が始めて市制を實施したるは明治二十二年四月にして、爾來年を閱する正に三十。

當時戸數僅に六萬三千六百餘、人口二十七萬九千餘に過ぎざりしも、今は戸數十二萬二千二百餘、人口六十六萬九百餘に上り、市の地域に於ては二千八百九十餘町歩より六千四十餘町歩に展開し、市費に於ては當時三十五萬三千六百餘圓なりしも、今は八百十六萬四千四百餘圓の巨額を計上し、尙又織物陶磁器漆器刺繡等の重要物産のみに就て見るも、當時僅々五百餘萬圓より既に九千萬圓を突破するに至れり、即ち戸數に於て約二倍、人口に於て二倍四分、地域に於て二倍一分を増し、財政に於ては二十三倍の驚くべき膨脹を來し、重要物産に在りても亦實に十八倍の激増を見るに至れり、而して此の間、本市の進展を企圖し、經營企畫せられたる事業枚擧に違あらず、雖其最も顯著なるものは、彼の水利、水道、道路三大事業の完成にして、本市が是に依て百年の大計を確立し、市民福を増進せるは既に一般の認むる所に係れり、而して其の他の施設に在ては、隣接町村の編入、京都電氣鐵道の買收、各種學校の増設並廳舎の増築、陳列所、勸業館、公會堂、動物園、陶磁器試驗場、京都病院、宇多野療養所等の新設の如き、將又教育、衛生、勸業、交通其他各般の方面に亘り施設改善せるもの擧げて數ふべからざるものあり、今遡つて之を市政施行當時の狀況に對比せんか、外的方面の發展、歴然人目を眩するものなくんば非ず、然り而して、更に翻つて内的方面を窺ふに、是亦各種營造物の形式的改善と共に、年々歳々、其の内容を充實し、著々大都市の面目を向上せしめつゝ、あるは各位と共に最も欣快に勝へざる所にして、就中六十萬市民が概ね自治の本義を了得し、和協輯睦常に

共同の利益を増進するに最むるが如き、居常質實勤儉の美風を培ひ、頃來特に社會的政策に留意するの傾向あるが如きは、確かに一般市民が內的進歩の象徴と見るを得べけん。

夫れ斯くの如く本市が既往三十年間に於て、爾く市勢の躍進を見るを得たるは、蓋し時運の趨勢に之れ因るも要するに其の根柢は遠く之を第一琵琶湖疏水の大成に歸せざるべからざるを覺ゆ。回顧すれば我が第一疏水の起工は明治十八年にして、當時我邦空前の偉業にして、朝野の耳目を聳動せしめたりき。越えて二十三年其の工を竣へて開通を見るに至りしより、爾來流水淙々三十年、恰も市制の實施と其の齡を等うせり。於是か本日、以て二大記念式を舉行し、或は市政に參與し、或は疏水の事業に關與し、熱誠本市に貢獻せられたる幾多の功勞者を表彰し、以て盛典を擧ぐるに至りたるは、一層本市の爲幸慶に勝へざる所なり。然りとも、雖も本市現下の状態を以て之を先進都市に比せんか、尙未だ及ばざる多きを感じざるを得ず。且夫れ今や世界的戰亂の餘を受け、國を擧げて改造更新を要すべきの時に際會す。吾人市政の局に當る者豈に夫れ一日の偷安を許さんや、謙介乏しきを本市長に受く、任重く徳足らずと雖も、拮据黽勉、渾身の熱誠を以て大京都の建設に努力せんことを誓ふ。冀くは市民各位吾人の微衷を諒し、協力相率ゐて國運の進展に寄與せられんことを、聊か蕪辭を叙して式辭となす。

なほ又遞信大臣の寄せたる祝辭は左の通りである。

京都市の市制施行、及第一疏水開通以來既に三十年茲に記念式を舉行せらるゝは、洵に慶賀に堪へざるなり。

本市は明治維新以後舊都の面目を一新し、獨り山水の秀麗風俗の優雅史蹟の饒富を以て宇内に稱せらるゝのみならず、殖産工業の興隆運輸交通の施設に就て極力經營し其成績頗る觀るべきものあり。我が逓信省の所管に屬せる電氣事業に在りても、明治二十四年五月疏水工事に附隨し、本市に電力の供給を開始せしは、實に我國に於ける發電水力事業の嚆矢にして、爾後長足の進歩發展を爲し、刻下の發電力は六千四百キロワットに上り、之を當初八十キロワット發電機二臺を有するに過ぎざりしに比すれば、霄壤の管ならざるを覺ゆ。

今や曠古の戰亂方に其局を收めたるに際し、第一の急務は産業の振興を圖り、以て國運の伸長に資するに在ることを俟たず、冀くは當路の諸士益々奮勵して力を市政の開發に盡さんことを、聊か所感を陳べて祝辭とす。

田邊博士
の答辭

其の他内務大臣、京都府知事、市會議長の祝辭があつて後に功勞者に對して追表彰狀、彰狀を贈り、主なる生存者へは記念品を贈つた。博士と三十年勤續市吏員富田勸業課長とが式場で答辭を述べて式は終つた。博士の答辭を左に掲げる。

光陰は箭の如くに過ぎ、第一琵琶湖疏水開通後爰に三十の歳月を閲することゝなりました。當時我が國の工業は甚だ幼稚であつたため、工事中に在つては世人其の成否を疑ひ、竣功の

後に於いては其の効果を危みしは無理からぬ次第でありましたが、其の後國運の進歩に御市に於いて其の經營の宜しきを得たるこゝ、相俟つて成績の大いに見るべきものあるに至り、實に慶賀の至りで御座います。今日其の記念式を舉行せらるゝに際し、余輩第一疏水工事に従事せしものに對し其の努力の聊なりしに關はらず斯の如く厚く表彰せらるゝの榮を得たるは、誠に恐懼の至に耐へざる次第、爰に一同を代表して謹んで御禮を述べます。

安藤市長
の表彰

而して當日、安藤市長が博士の功績に對して贈れる表彰は左の如くであつた。

第一琵琶湖疏水事業ハ我邦空前ノ偉業ニシテ實ニ本市百年ノ大計ニ屬セリ。貴下ハ其ノ創業ヨリ峻成ニ至ル迄、工事部總轄ノ重任ニ膺ク、熱誠銳意、竟ニ克ク本事業ヲ尤成シ以テ本市永久ノ福利ヲ確立セラル。丕績燦トシテ本市中央ニ耀キ永ヘニ誦レサル所ナリ。

茲ニ疏水開通三十年ノ記念式ヲ舉クルニ莅ミ、銅製像置物ヲ贈呈シテ其偉功ヲ表彰ス。大正八年十二月六日、京都市長安藤謙介

此の日疏
水殉難者
弔慰祭典
を執行す

此の記念式の舉行前、傷むべき疏水工事犠牲者十七人の靈を慰むべく、市は嚴肅なる祭典を、同市公會堂にて執行したのである。博士が親しく其の工事に使役せし殉職者に對する同情の如何に切なるものありしやは、前章に於いて編者の明かにせしところ。さればこの日の弔慰祭典は博士の熱誠の善く市當局を動かせし結

果と見るべく、博士が此の祭儀に臨むや、當年の悲劇を追想して肅然たるを禁じ得なかつたであらう。市長は立つて左の弔辭を朗讀した。

弔辭に曰

弔辭

京都市長正四位勳三等安藤謙介、本日を下して第一琵琶湖疏水開通三十年の記念式を擧ぐるに先ち、特に祭壇を設け、蘋醪を奠し、疏水工事殉難者故京都府六等屬土岐長寛君外十六子の靈に告げて曰く、第一琵琶湖疏水事業は我邦空前の偉業にして、實に本市百年の大計に屬せり。當時諸子は職を疏水事務所に奉じ、終始能く上司の命に尊ひ、各般の工務に従事し、時に荆棘を排き、時に幽洞に入り、刻苦勵精、專念其の職務に傾到せしも、不幸にして中途或は火藥の爆發に墮れ、或は土石の崩壞に壓せられ、或は瘴癘毒霧に中り、終に竣成に先ち空しく非命の死を遂げらる、悲矣。然り、雖も凡そ一事一條を遂行せん、せば必ずや幾多犠牲の是に伴ふを知らざるべからず。前に蜀道の險あらば、後に巫峽の難あり。能く之を突き、能く之を破り、而して後初めて大成の彼岸に達し得べきなり。況んや第一疏水の如き千古の偉業に於てをや。憶ふに諸子が其職を知て身を顧みざりし、獻身的努力は、歿後燦然として其華を開き、其實を結び、克く本事業を完成せしめ、延て我が三大事業の根底を確定せしむるに至れり。是れ豈に諸子が犠牲の資にあらずして何ぞや。嗚呼、諸子、今や逝きて泉下に眠る。雖、諸子が熱誠永く一般吏僚の龜鑑となり、諸子が芳名は疏水の清流と共、滌々として千秋汚るなけん、諸

子亦以て瞑すべきなり。

茲に本日を以て諸子の遺族を招き、聊か薄奠を備へて哀悃を披瀝す。在天の靈尙は享よ。

大正八年十二月六日

①第一琵琶湖疏水開通三十年記念式日當日表彰せられし功勞者は故北垣國道、尾越蕃輔、田邊朔郎、島田道生、外八十四名。常務員東枝吉、兵衛外十一名。同故堤彌兵衛外十三名。勸業諮問會員三井八郎、右衛門外二名。同故山本覺馬外三十一名。上下京聯合區會議員加藤道榮、外十五名。同故平井市兵衛外六十三名。市會議員濱岡光哲外十五名。同故野橋作兵衛外二十五名。なほ同日執行の市制施行三十年記念式に於ける表彰者は市會議長柴田彌兵衛外三十七名。市主事富田直詮外三名である。